

宮っこ未来ビジョンの実現に向けた提言「社会総ぐるみによる人づくりの推進」(概要版)

「宇都宮に住んで良かった」、「宇都宮にずっと住み続けたい」という思いを持って幸せな人生を過ごすことができるように・・・

- ・どんなときにも「人に対する愛情(思いやり)」と「よりよい社会を目指す情熱(社会力)」が大切
- ・あいさつやコミュニケーションは、その先にある新しいものの創造につながる全ての資質・能力の基本
- ・すべての教育は、大人を手本としている。

本市の人づくり(宮っこ未来ビジョン)

- 「心豊かでたくましく生きる人を目指して」を基本理念に掲げ、「学び」を通じた望ましい人づくりを推進するための基本的な考え方や家庭・地域社会・行政の役割、それらの連携のあり方などを示している。
- 現在では、「魅力ある学校づくり地域協議会」や「宮っこステーション」の設置などのように、市民が人づくりの活動に参加、参画する機会も増えている。
- 人づくりの根底である心を育むため、市民一人ひとりの日常生活の中に人づくりの意識をしっかりと根付かせ、社会全体が一つとなって取り組める仕掛けが必要である。

人づくりの現状

- 人と人が会話し、家庭や地域、社会の中でつながりを感じられるようになることが、各世代を通じて強く求められている状況にある。

- ・地域コミュニティ意識の低下や連帯感の希薄化が指摘され、本市でも約5割の人が地域の教育力が低下していると考えている。原因として、個人主義の浸透などのほかに、マンションの増加や転入世帯の増加、リーダーの不足なども指摘されており、居住環境の変化から近所同士の関係構築が困難になっている。
- ・これからの社会を生き抜くために必要な力として最も多かったものが、これまでは「善悪を判断する力」や「社会や集団ルールの遵守」であったものが「人間関係構築力」へと変化している。
- ・すべての年代を通じて約半数以上の人が親しく話ができたり、困ったときには助け合ったりする近所づきあいを希望している。

- 地域や行政において様々な取組が行われているが、各主体の横のつながりが少なかったり、世代によって求めるものが異なっていたりなど、全市をあげて目標を共有して取り組んでいるという意識が持てない状況にある。

- ・今、地域やPTA、学校、行政などどこでも、子どもたちの育成に関する活動に一生懸命取り組んでいるが、それぞれ個々に頑張っていて、横のつながりが少なく、さらに地域の中では、同じ人があちらこちらの団体に参加し、一人で何役も就いているような状況もある。
- ・人と人とのつながりの希薄化の延長として、世代間のつながりも分離し、世代ごとに孤立感を感じる状況も危惧される。特に、子育て世代と子育てを終えた世代の家庭教育に求めるものの違いが顕著であり、世代によって人づくりに対する考え方が異なっている。
- ・行政では、様々な部署において社会全体で子どもを育むことを目的とした多種多様な事業を実施している。

- 子どもたちを育成するために、社会総ぐるみで取り組まなければならない状況にある。

- ・子どもたちの育成において、第一義的責任を有する家庭の教育力の向上は不可欠だが、昔は多くの地域で行われていた様々な体験活動等の教育的役割も忘れてはいけない。
- ・家庭については、親学出前講座などの取組によって、保護者の意識も着実に高まってきている一方で、子どものしつけを学校に任せきりといった保護者も見受けられ、家庭がしっかりと役割を果たしていかなければならない。
- ・そのためには、親に対する学習機会の提供、子どもへの体験活動機会の提供のほか、親の相談機会の充実や労働時間の縮減など、親が子どもと向き合う時間と心を支えることが非常に重要となっている。
- ・地域の子どもたちのための活動への参加状況については、積極的またはときどき活動している人が全体として2割半ばであるが、子育て世代に限ると約3～4割が活動している。子どもの卒業と同時に地域活動から退いたり、忙しいという理由で地域活動に参加しない人も多い状況にあり、今後の地域活動の担い手不足や活動量の減少が懸念される。
- ・父親の家庭での教育や地域活動への参加についても、依然として十分な活動ができているとは言えず、労働時間の縮減など、引き続き企業の理解や協力が不可欠である。
- ・子どもの忍耐力の欠如や道徳心の不足、集団行動や人間関係の未熟さがよく指摘されているが、大人力の不足、特に大人のモラルの低さも原因であると考えられ、地域の大人としてできることを考えていかなければならない。

取組の方向性

市民一人ひとりの意識と行動が変わるために

子どもの模範たるべき大人として、未来を生きる子どもたちを育てるという責任を自覚し、日常的な小さな事から人づくりの行動につなげていかなければならない。

家庭、地域、学校、企業などの活動主体や子ども、親、高齢者などの世代の違いを超えて、理解・協力し合うことにより、一人ひとりの意識や行動を変革し、日常生活の中で人づくりの意識を着実に根付かせ、社会総ぐるみで人づくりを推進できることを目指す。

具体的方策

① 市民全体で心をつなげて取り組む

社会総ぐるみで人づくりに取り組むためには、みんなが一体化できる目標を設定することが有効である。

子どもから大人まで全ての人が分かるような、簡単でインパクトのある言葉、宇都宮のよさを訴えられる言葉、楽しさや希望が感じられる言葉などで、目標やスローガン等をつくり、市民一人ひとりの具体的取組につなげることで、みんなで取り組んでいるという意識も高まる。さらには、家庭や学校、地域の団体等が同じ方向を向き、一体となって人づくりに取り組む上でも効果的である。

条例についても検討したが、まずは身近なところから具体的な行動に移すことが効果的であり、市全体の機運が高まってきたときに検討すると良い。

【一体感を醸成するその他の取組例】

- ・「こども週間」や「〇〇月間」などを設定する
- ・「子ども会議」などを通じた、子どもの視点を取り入れる
- ・栃木県が制定した「とちぎの子ども育成憲章」を活用する

② 横のつながりを深め、活動を広める

小さな活動でも点から面へ広がり、大きな力となる。人づくりの大きなうねりを作り出すため、学校や地域、企業、行政のネットワーク化を図り、共有化した方向性のもとに継続的活動を推進する市民組織や活動を市全体に広めていく仕組みが必要である。

当「宇都宮の人づくりを考える会議」などの既存組織を活用し、機能的な体制を構築するとともに、活動を市民に知ってもらえるよう発信力の強化が必要である。

【横のつながりを意識した取組例】

- ・地域コミュニティセンター等を活用して「イクメン」を集め、親世代を地域に取り込む
- ・高齢者世代による「応援団」が学校や地域で活躍する
- ・各種の地域活動の調整やつなげる役割を担う「地域コーディネーター」を設置する

③ みんなで子どもの夢を育める環境をつくる

子どもたちが達成感を感じたり、地域の異年齢・異世代の人々との交流の中から楽しさや喜びを感じたりするような経験が重要である。また、目標を見失いかけた子どもたちには、もう一度立ち上がれる機会を作ってあげることが大切である。

子どもたちの教育は、本来、家庭が基本であるが、地域や企業にも子どもたちの育成のためにできることがある。

心豊かでたくましい子どもを育成する上での問題や課題について、みんなで考え、それぞれの立場でできる役割を担っていく必要がある。

【取組例】

- ・親と一緒に授業を受けたり、子どもによる親の職場参観を実施する
- ・現在課題となっている携帯電話やインターネットへの対応について考える
- ・栃木県PTA連合会が策定した「いい親の日」宣言を活用する
- ・子どもが良いことをしたらポイントがたまるとご褒美制度や子ほめ(表彰)制度を実施する
- ・子どもが楽しさや達成感を味わえるイベントを実施する